

SSKR まうんてんえこー

NO.319

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所(就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@nerimayamabiko.com

山彦相談支援事業所(相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@nerimayamabiko.com

やまびこ第二作業所(就労継続支援B型)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所(相談支援)

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX(03)6906-9803
Email: ymbk2-soudan@xvb.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井(就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: yamabiko@shakujii-work.jp

チャレンジワークやまびこ(就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: challenge@shakujii-work.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所(相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: soudan@shakujii-work.jp

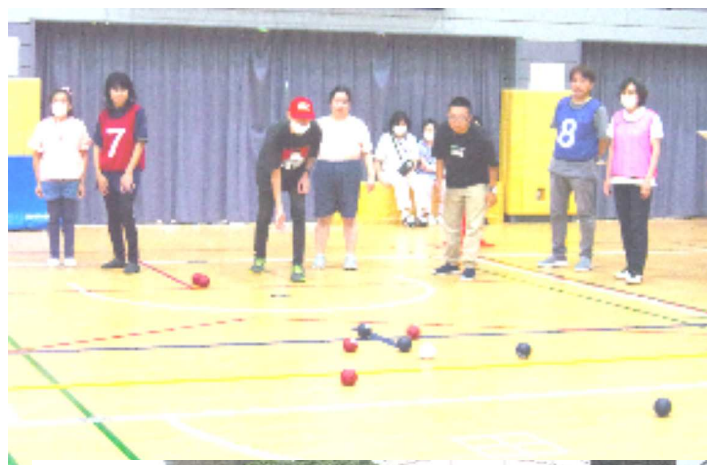
やまびこ三原荘(共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

目次

表紙 山彦作業所

- P2 山彦作業所 バザー
- P3 ワーク わくわくフェスタ
- P4 第二 パスレク・自動車
- P5 三原荘・相談 近況
- P6 国会請願署名報告・お礼
- P7 やまびこのペン
- P8 やまびこのかぜ



練馬区ボッチャ交流大会



8月28日に光が丘
体育館で行われた
「練馬区ボッチャ交
流大会」に山彦作
業所、ワークショップ
石神井、やまびこ三
原荘の3事業所が参
加しました。とても
充実した時間となり
ました。5ページの
三原荘の近況に詳し
く書きました。



山彦作業所バザー大盛況

10月27日土曜日、約4年ぶりに山彦作業所地域交流事業「秋祭り＆バザー」を開催することができました。

おかげ様で、当日は沢山の方に
ご来場頂き、大盛況のうちに終えることができ、これもひとえに、ご来場くださった方をはじめ、物品を提供して下さいました方、ボランティアとして運営を支えて下さった方など、皆様のご支援のおかげと、厚く御礼を申し上げます。

4年ぶりのバザー開催の為に、どうしたら良いのかを職員間で話し合いました。

「地域の方にメンバーと関わって欲しいので、メンバーも参加してほしい」「メンバー作業の弁当を地域の方に食べて欲しい。そ



れでメンバーの工賃を増やしたい」「以前のような所内全体をバザー品ではなく、地域の作業所やグループホームに参加してもらったかどうか？」等々の意見を出し合いながら準備を進めてまいりました。

今回のバザー品は、主に新品の品物と限定させて頂き、所内の半分くらいをバザーコーナーとしました。

残り半分の場所をブースごとに分け、山彦作業所のメンバーとご家族が「ガパオライス」「コーヒ」「わたあめ」を販売し、メンバーは目を輝かせながら楽しそうに販売をしていました。

同じ富士見台地域の「貫井福祉工房さん」は自主製品のパンを販売、同じく富士見台地域のグループホーム「ともろっさん」は子

供達向けのゲームコーナーを作った参加し、同じ法人の「ワークショップ石神井」は、自主製品のハーバリウムやリース製品をメンバーと職員で販売、メンバー同士の交流もできました。大泉地域を拠点に活動している「ヴァイスウエアサさん」はキッチンカーで韓国おでんやフランクフルト・デザートの販売で参加してくれました。

さて当日は、10時オープンで、並んでくれているお客様が4名様（4年前のバザーは30名程の長蛇の列）でした。4年ぶりに開催するということとは、忘れられてしまふのだと思つた悲しい現実でした。職員とご家族の方が慌てて駅や作業所周辺でピラ配りに行った甲斐もあり、ゆつたりなオープンでしたが、徐々にお客様も増え、近くの重度障害児デイ・ララベビィノさんも子供達を連れて20人くらいで来てくれました。

例年よりも、地域の子供達が多く来てくれて、子供たちの声がワイワイ聞こえる活気のあるバザーとなりました。「地域の子供たちが気軽に立ち寄ってくれる作業所になる」私たちの目標が少し近づいた気がしました。

（黒川）



【山彦作業所バザー売上】

キッチンやまびこ「ガパオライス」
売上20,000円利用者工賃へ

利用者自治会「コーヒ」
売上5,600円自治会費へ

バザー品

売上46,000円

利用者と練馬山彦福祉会の為に大切にに使わせて頂きます。

ワークショップ石神井 近況

わくわくフェスタ開催

「地域のみなさま、お久しぶりです」。当日の立て看板にこのメッセージを記して地域のお客さんをお迎えしました。

11月16日（土）、4年ぶりの地域交流イベントを開催することができました。地域住民の方々との交流が主な目的としてこれまでバザー等を開催してきましたが、今回は新しい取り組みとして、普段からお世話になっている隣の事業所さんとの交流も兼ねての開催としました。

「日本キリスト教団石神井教会」さんは手作り体験（ビーズのハンドメイドのブローチ）、「NPO法人ハッピー



フリーマーケットの商品の値付け
メンバーも歓談しながら取り組みました

ひろばはなもハッピー石神井台」さんは、手作りのバッグ、藍染の手ぬぐい、リース作成キットの販売、「石神井障害者地域生活支援センターういんぐ」さんは、こども向けのゲーム（さかなつり、ペットボトルダーツ）とそれぞれ出店していただきました。当事業所としては、事業所紹介のパネル展示、手作り体験（ハーバリウムペン、リース）、フリーマーケット、自主製品販売、のみもの、わたあめを出店しました。メンバーもそれぞれの持ち場でいきいきと参加しました。

【当日のアンケートから】

来場された地域のお客さんの声を紹介いたします。

・コロナで（イベントが）なくなっていました。今後開催していただきたいです。（50代女性）

・生きがいになる。勇気もらえる。ちょこちょこあると、小さな楽しみで気軽に良い。出会いの喜びとなる。（60代女性、80代女性）

・作業所に来るのは初めてでしたが、丁寧に案内してもらって訪れてよかったです。（40代女性）

・楽しそうなおまつりでよかったです。またきます。（50代女性、他）



フリーマーケットのコーナー
のべ140名のお客さんがご来場！

・子供と楽しめました。（40代女性、他）
・3歳でも楽しめるゲームで良かったです。わたあめ大喜びでした。（30代女性）
・無料のワークショップがもつとあると良かった。（50代女性）
・ハンドメイドの作品良かったです。（60代女性、他）
・楽しい雰囲気であたたかい時間を過ごせました。（40代男性）

【みなさまと共につくる】

フリーマーケットの商品にと、何度も物品提供に足を運んでいただいたご婦人もいらつしました。地域のみなさま、関係者のみなさまと一緒にくり上げたフェスタにすることができ、心から感謝申し上げます。

またご一緒に「わくわく」しましう！（佐藤）

やまびこ第二近況

1年ぶりのバスレク

11月8日（金）、バスレクで成田航空科学博物館に行ってきました。天気もよく清々しい陽気で楽しく過ごすことが出来ました。参加したのはメンバー20人、職員5人、ボラさん2名の27人です。

航空科学博物館で特に印象深かったのは、実物大のジャンボ機の輪

切りになった展示です。ちょうど鮭の切り身のように、ジャンボを包丁で切るとこんな感じになるんだなあ。と、写真に収めた方も多かったようです。一番下に荷物倉庫、その上に客席、等々と、かなり衝撃的な展示でした。

昼食はバイキングでした。自分の分だけ取ること、残さないこと等々。マナーを確認しました。全員でバイキングのルールに気を付けて食べることが出来て、少しホッとしてました。少し食べ過ぎて健康にはどうかなと思う気持ちもあったのですが、年1回位なので、い

いかなあ・・・と、日頃、うるさい職員もこの日ばかりは。一緒にお腹いっぱい食べました。

コロナの影響で昨年度は1回しかバスレクに行きませんでした。今年度は2回目は行けそうです。20年からの23年までは、まったく行けなかったのが、今回が初めての参加という方も数名いました。何よりも「また行きたいです」という言葉が嬉しいのです。

特に実行委員の2名の方は、準備やら挨拶やらと緊張もあったことでしょう。みんなの笑顔を願って苦勞をしてくれたことに感謝します。



航空科学博物館の前での集合写真

ありがとう元気自動車

30年間のお勤めありがとうございました。これは作業所のハイエースに対しての言葉です。30年前と言うと相当な昔です。村山内閣、米騒動。ドラマ「家なき子」のヒット、その時代からずっと走り続けてくれました。運転中に聞いたラジオ番組も、終わってしまった番組もたくさんあります。30年ってそれほど昔のことです。

全身がボコボコで、シートからも綿が吹き出している状況でしたが、エンジンは元気で、ここまで乗ることができました。私はここまで傷だらけの車に出会ったことがありません。あるとすれば沖縄の離島で走っていた車だけです。それだけ迫力があるゴツい車でした。

公園清掃、納品、バザーの物品受取、引っ越し等と、遠いところから狭いところまで、本当に助けられました。それと以前は、喫煙はOKでした。そのためにエアコンを入れると、煙草の匂いで充満していたのですが、禁煙となって22年、いつしかエアコンの風も匂わなくなったのですが、今度はエアコンが点かなくなっていました。オートマ車ではなく、マニュアル車。

今の時代にマニュアル車とは・・・ギアチェンジの度に、ガコガコなっていました。ほんの少しの段差が響きます。普通に走って風を受けているだけなのに、ギシギシ鳴る車体。ここ数年は「もう限界かな・・・」と思っていましたが、それでもよくぞここまで・・・。毎回の車検が怖かったです。

ハイエースは、やまびこ第二作業所の30年を見てきた生き証人です。多くの作業、職員、メンバーを見て、そして多くの会話を聞いてきました。一時、ニツクネームが付いたことがありますが、「電気自動車」というステッカーを「元気自動車」と上書きして走っていた時期がありました。名前の通りの「元気自動車」でした。（池田）



ハイエースと最後のお別れ

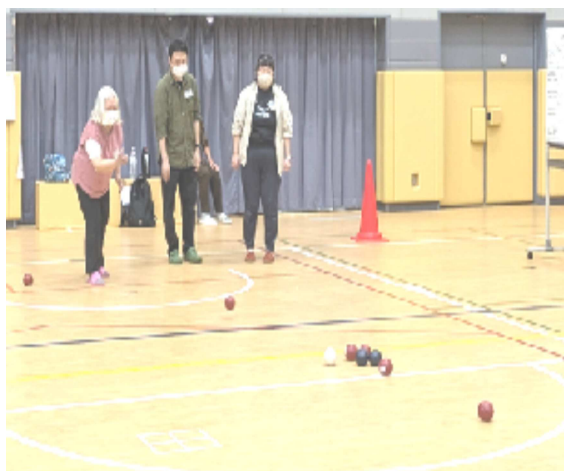
やまびこ三原荘 近況

8月28日（水）に光が丘体育館で行われた、練馬区主催のボッチャ交流大会に参加してきました。このボッチャ大会は、ユニバーサルスポーツフェスティバル（年齢、性別障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツ）として開催され、山彦からは、山彦作業所、ワークシヨップ石神井、三原荘が参加しました。今回のボッチャ大会は、昨年に引き続き2回目の交流大会で、三原荘からは、入居者3名と職員2名が参加し、リーグ戦を5チームで戦いました。



結果は1勝4敗となり決勝トーナメントには進むことはできませんでしたが、今回初

参加の中で全員が楽しむことができました。



ルールとしてはジャックボール（白ボール）にチームのカラーボールを近くに寄せた方に点数が入るのですが、最初のカラールールをジャックボールに寄せるところが、みんなが苦戦したところでした。1回戦、2回戦と戦うにつれ、それぞれがコツを掴んできて徐々にボールを投げる力加減がわかってきました。実力が均衡しているところでは運も関係してきます。三原荘も何とか最後に1勝を挙げ、みんな大喜び合うことができました。来年こそは、決勝トーナメントに出てみんなでメダルを目指して頑張りたいと思います。（三原荘 青柳）

相談支援 近況

計画相談が制度として始まってから、12年ほど経っています。当法人の事業所の開所は、それから1年後です。制度として認知もされてきているのですが、事業所数が伸びないままとなっています。ただ単に力所数としては区内でも40力所を超えているのですが、それでもまだまだ足りていないのが現状です。

一向に力所数が伸びない大きな原因として考えられるのは、その運営費の脆弱さです。

一件やっていくという制度ですが、その額があまりに低いことが上げられます。年間百数十件はやらないと、一人分のお給料にも届かない状況で、事業所を増やすことがそもそも困難です。就労B型との兼務。訪問看護と兼務等々と、何かの事業との抱き合わせで何とか成立している。単体でやっているところが一定のノルマにより、手続きに専念するしかない・等々。これが、力所数は増やすことが困難です。

区内で40力所以上と言うと

聞こえは良いのですが、その中身はどうでしょう？年に数力所の事業所が開所されています。閉所に伴い、その事業所が受けていた方を引き受けることも続いています。閉所が出来ずに開店休業している事業所もあります。このような状況でも新規の依頼が続きます。

特に、北町田柄地区は相談事業所自体が少なく、他にいく当てがない・等々の状況があり、どうしても引き受けざるを得なくなることもあります。相談内容は年々、多岐にわたっています。

私を始め、相談員個人の力量のアップで対応できるようにすることも重要なのですが、いくらなんでも限度というものもあります。意義もあり大切な事業であることは分かっているつもりです。14年1月の開所当初は、この事業が展開することを期待もしていたのですが、その思いは10年以上据え置かれたままです。まもなく丸11年になります。

（第二相談池田）

第47次国会請願署名のお礼

第47次国会請願署名・募金運動へのご協力をありがとうございました！

▼署名の意義

「私たちが加盟している『きょうざれん』の国会請願署名に多大なご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。」

今回で47次となるこの署名活動は、障害のある方やご家族、事業所の職員の願いや実態をひろくお伝えする目的もあります。請願内容をご説明させていただけるだけでもとても意味のあることだと思っています。また、署名を通じて普段はあまりお会いすることのない方々とお話をさせていただいて、色々な方々にお世話になっていくことを実感しています。

▼署名数・募金額

47次国会請願署名の山彦

福祉会でご協力頂いた署名は約3000筆、募金は約9万円でした。

全国では

署名 638,135筆

募金 21,208,861円

となりました。

▼5月の国会請願行動

毎年、議員会館を回って直接国会議員に署名を手渡しする国会請願行動についてなのですが、残念ながら当法人としては、参加できませんでした。当日5月30日は、全国の事業所から障害のある方や職員等の約400名で、国会請願行動を実施しました。

紹介議員になつてもらうよう議員1人1人をまわつて、みなさまよりご協力いただいた署名を手渡し依頼しました。最終的に紹介議員になつてくれた方は、257人（衆172人・参85人）となりました。

▼旧優生保護法について

また、2024年7月3日、旧優生保護法のもとで障害などを理由に不妊手術を強制された人たちの国を訴えた裁判が最高裁判所大法廷でありました。判決は国の責任を認め、また除斥期間についても適用をするべきではないと、政府の訴えを退けて、原告側の完全勝利となりました。

命に優劣はつけられないと、現在では当たり前に考えますが、法律が制定された当時は戦後直後でもあり、国会では全会一致で制定されたと聞いています。その当時には当たり前のことでも、少し時間が経てば価値観がガラッと変わってしまうことは多々あります。今・現在が当たり前のことでも、少し時が経つと「非人道的」と言われることもあるはず。少数派、声なき声に耳を傾けていくことは大切であることを教えてくれた大きな出来事でした。

強制不妊手術の被害にあった方々には想像できないほどの苦しさがあつたことと思います。被害に

あわれたとわかつている方は、ほんの一部で、実際にはもっと多いはずだ、と言われている。国として、どう謝罪し保障していくのか、どのような振り返りをしていくのか等々と、今後を注視していきたいと思います。

▼結果は不採択。でも、

今回、請願の採択は残念ながら不採択になってしまいました。採択をされると請願項目を国会で審議をするようになるのですが、それは叶いませんでした。もう20年近く不採択が続いていますが、それは請願項目がより具体的になつていく証拠であり、例えば採択はされなくとも、今回の旧優生保護法のように、大きなうねりの力になつていきます。重ねて、ご協力をありがとうございました。

署名担当一同
2024年11月

やまびこのペン

作業について

やまびこ第二作業所

斎藤 恵子

開所当初(84年)、作業は「機織り」と「木工」でした。ボランティアさんに教わりながら、取り組んでいました。メンバーが作った製品をいろいろな人に知ってもらい、使って頂く喜びを感じて欲しいと考えていました。

その当時の作業を思い出しますと、実際の機織りや糸鋸で製品づくりをするだけでなく一日機織り用の布を裂く人や木工の製品前の紙やすりをかける人などが多くいて、今考えると、のんびりとした中で病気や入院、生活の話などみんなから教えて頂いた貴重な時間だったように思います。デイケアや生活支援センターなどがある現在と違い、ただ日中通える場所があるだけ

でも有難がられた時代でした。

.....

しかしながら法律や作業所の機能が変わり、みんなの願いは「働いた分、工賃を少しでも多く欲しい」という希望が強く出てきましたので、みんなが出来る作業で少しでも工賃が高い作業を考えて取り入れてきました。

作業所の作業として選ぶ際にみんなで協力して取り組める内容で、工賃が低いとモチベーションが上がリませんので、いろいろな業者さんと単価交渉をしたり、見積もりを出させていただったりして、今の定期的な作業を受け取るという形態に落ち着きました。

下請け作業を取り組むにあたり、作業所の中では他の人から部材を受け取る時に挨拶をする、こと、丁合作業を確認するときには、了解した時は手を挙げてもらうことなどみんなに徹底しています。説明をするときは説明者の近くに集まってほしい

ことやその間にトイレは避けてほしいことなどもお願いしています。時間はかかりましたが、間違えて失敗をしないよう、また時間を短縮できるよう出来るだけ職員が工夫してみんなに伝えるように心がけています。

.....

最近、今まで職員が準備していた作業を徐々にメンバーにお願いすることが増えてきました。それは、作業や事務を回している職員より作業をずっと取り組んでいるメンバーが、しっかり作業をこなしながら出来るようになってきたからです。もちろん全てのメンバーが出来るわけではありませんが、しっかりと理解しているメンバーと他のメンバーが組んで素早く丁寧に取り組むことが出来る作業が増えてきて、他の人との関係性にも繋がっていると感じています。またメンバーの力を信じて、作業に活かせる事はメンバーにとっても自信に繋がるのではないかと感じています。も

ちろん、作業だけが全てと思っ
ていませんが、その人の生活の
中で少しでも自信が持てれば、
就労も含め自分の望んだ事に挑
戦しようとする気持ちが生まれ
てくるのではないだろうか。

.....

84年に開所してから40年が経
ち、作業のあり方も取り組み方
も随分変わりました。メンバー
を取り巻く状況も変わり、改め
て作業は通ってくるメンバーに
合わせた内容・やり方を、その
時、対応している職員の考え方
や対応の仕方が変わってくるも
ので支援そのものと感じていま
す。

通ってくる人に本当に、その
作業が合っているか、みんなは
何を希望しているのか、その人
がどう生活し生きて欲しいのか、
メンバー同士、メンバーと職員、
職員同士しっかり話し合える関
係性づくりが大切と考えていま
す。



やまびこのかぜ

やまびこに入ってから

やまびこ第二 さつちゃん

私は6月からやまびこ第二に通っています。

6月は32時間働きました。

最初は慣れるまで時間がかかるだろうと思っていました。

でも、職員さんや周りの方が優しく、特に、

一緒に公園清掃に行く時間には、とてもしつくりしています。

そんな日々を送り、働く時間が増え、10月は62時間も働きました。

やまびこの時間は、やりがいがある、楽しい充実した時間です。

私は不器用なので、上手に行かない作業もあるので、

工夫をしながら上達して行くのも嬉しいです。

62時間には、そんなとても良い物が詰まっています。

頑張りが工賃になるのも嬉しいです。

私は恋人と二人暮らしで、以前は家にお金を入れると月2万円です。

時々赤字です。

今は貰った工賃で寒がりの恋人に電気毛布を買えました。

やまびこに通ってから、私は自分が好きになりました。

頑張れる事、心が成長できた事、余裕ができた事が。

私は欲張りなので、もっと頑張りたいです。

■職員から

6月に通い始めてから、まだ半年しか経っていないのですが、もうすっかり馴染まれています。

月62時間は、大体、週3日のペースです。11月からは週4日にチャレンジをされています。仕事も積極的で、あかるく親切な方です。

生活に少しゆとりが出来て良かったですが、まだまだ頑張りたいたとあります。前ページの斎藤さんの文章にもあったように、職員一同、このような、さつちゃんさんの気持ちを大切にしていきたいと考えています。

編集後記

表紙のタイトルが変わったことにお気づきでしょうか? これまでずっと「まうてんえお」でしたが、今回から「まうてんえお」となります。発行開始当初は「えこ」だったので、原点回帰となります。先日ある方から、「まうてんえお」って「やまびこ」のことなのですね」と言われました。そうなんです。皆さまの中に「やまびこ」が響きわたりますように。(渡辺)

編集人

社会福祉法人
練馬山彦福祉会

東京都練馬区
富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会

東京都世田谷区
祖師谷3-1-17
ヴェルドーラ102号室

頒価 20円